

問 広域避難計画は 実効性あるものに

答 大規模・広域的訓練等も行いたい



おおな みえこ 議員

問 議会原特委は請願審査の一環で県原子力安全対策課へのヒアリングを行った。県は「実効性ある広域避難計画の策定」における主な課題として、避難先の確保、移動手段の確保、要配慮者の避難、避難退域時検査体制、安定ヨウ素剤の配布体制、屋内退避時の対応をあげた。村も共有しているのか。

答 いずれも本村の広域避難計画策定において重要なファクターとなるものと認識しており、内閣府が取りまとめる「緊急時対応」や

茨城県計画との整合性が図られるべきものと受け止めている。

問 県の課題が解決しない状況でも村の避難計画は実効性を伴わせることができるのか。

答 「関係省庁や茨城県と連携しての大規模・広域的な訓練」等を通して、国・茨城県・避難先自治体・関係機関との連携・協力に向けた経験蓄積・練度向上、広域避難に関する住民理解の普及・促進などを通して、実効性の確認・向上に継続的に取り組んでいきたい。



2019年度広域避難訓練の一コマ
村公式HPより

問 村公共施設で マスク忘れ対応を

答 窓口で必要に応じマスクを提供

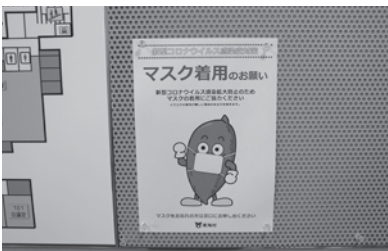


公明党
おかざき さとる 議員

問 庁舎や公共施設等を利用する際のマスク忘れに、対応を求める。施設入り口に、「マスク着用のご協力をお願いします。お忘れの方は窓口にお声かけください」と優しく村民を迎えるためのポスター掲示ができないか。このような掲示があれば、マスク着用を忘れても安心して施設等の利用ができる。村民を優しく迎える庁舎・公共施設であってほしい。本村の対応は。

答 施設等の利用者がマスク忘れなど未着用の場合は、声掛けを行

い必要に応じてマスクを提供し、着用してもらうなどの取り組みを行っている施設窓口もあるが、各課の裁量で現場対応しているのが現状である。今後は、安心して公共施設等を利用できるよう、マスク着用のご協力に関するポスターを施設入り口に掲示する。併せて、グループウェアを活用して、全職員向けにマスク提供のルールを周知し、必要に応じたマスクの提供について全庁的に統一した対応を図ることでマスク忘れに対応する。



公共施設入り口に掲示